



ひだか 農業委員会だより

第 60 号 H29.7.27 発行

発行 日 高 市 農 業 委 員 会
編集 農業委員会だより編集委員会
日 高 市 大 字 南 平 沢 1 0 2 0
Tel 0 4 2 - 9 8 9 - 2 1 1 1 (代 表)



おもな内容

- | | |
|---------|--------------------------|
| 表紙 | … 林ブルーベリー園（新堀地内） |
| 2 ページ | … 農地の利用の最適化の推進に関する指針について |
| 3 ページ | … 農業の適正な管理と処分等について |
| 4・5 ページ | … 農業委員会委員、農地利用最適化推進委員の紹介 |
| 6 ページ | … 農家さんの紹介 |
| 7 ページ | … 明日の農家さんの紹介 |
| 8 ページ | … 各種事業報告等について |

農地等の利用の最適化の推進に関する指針を策定

日高市農業委員会が農地等の利用の最適化の推進に取り組むため、法律に基づく指針として、具体的な目標と推進方法を定めました。

この指針で定めた目標を達成できるよう、活動に取り組んでいきます。

1. 遊休農地の発生防止・解消

	管内の農地面積(A)	遊休農地面積(B)	遊休農地の割合(B/A)
現 状 (平成 29 年 4 月)	892.1ha	36.1ha	4.05%
目 標 (平成 32 年 4 月)	886.1ha	27.1ha	3.06%

●具体的な推進方法

- ①農地の利用状況調査と利用意向調査の実施
 - ・農地法の規程による利用状況調査及び利用意向調査の実施について、協議・検討し、調査の徹底を図ります。
- ②農地中間管理機構との連携
 - ・利用意向調査の結果に基づき、農地所有者及び農業者の意向を踏まえ、農地中間管理機構へ貸付けを行います。

2. 担い手への農地利用集積・集約化

	管内の農地面積(A)	農地利用集積面積(B)	集積率(B/A)
現 状 (平成 29 年 4 月)	856ha	60.2ha	7.03%
目 標 (平成 32 年 4 月)	859ha	78.2ha	9.10%

●具体的な推進方法

- ①地域における農業者等の話し合いの活発化
 - ・「人・農地プラン」の見直し等における地域ごとの人と農地の問題解決のための集落座談会など農業者等による協議の場を通じた話し合いに活発化を図るため、積極的に地域の協議へ参加します。
- ②農地中間管理機構等の連携
 - ・市、農地中間管理機構及び農協等と連携し、農地中間管理機構に貸付けを希望する遊休農地、経営の廃止や縮小を希望する高齢農業者等の農地及び農地の出し手と受け手の意向を踏まえたマッチングを行います。
- ③農地の利用調整と利用権設定
 - ・法人等を含めた担い手の意向を踏まえた農地の集約化のための利用調整・交換と利用権の再設定を推進します。また、将来的に離農してしまう可能性のある農業者を把握するとともに、認定農業者に対し農地流動化情報を提供し、農地利用集積活動を行います。

3. 新規参入の促進

	新規参入者数(個人) (経営面積)	新規参入者数(法人) (経営面積)
現 状 (平成 29 年 4 月)	0 経営体 (0ha)	0 経営体 (0ha)
目 標 (平成 32 年 4 月)	3 経営体 (1.3ha)	3 経営体 (3ha)

●具体的な推進方法

- ①関係機関との連携
 - ・農協、県農林振興センター等と連携し、農地の借り入れ意向のある認定農業者及び参入希望者(個人、法人)を把握し、必要に応じて現地見学や相談会を実施します。
- ②農業委員会のフォローアップ活動
 - ・農業者の高齢化により耕作放棄地となりうる農地等の情報や遊休化のおそれのある農地の情報を把握し、新規就農等を促進する活動を行います。また、新規就農者の受け入れに関し、各種補助制度のあっせんや農地の確保等、積極的な支援を行うとともに、地域との受入条件の調整等を行います。

農薬の適正な管理と処分について

平成28年2月1日に桶川市川田谷地区の江川流域にて魚のへい死事故があり、河川水を採取したところ、現在は販売及び使用が禁止となっている農薬成分「エンドルスファン」が検出されました。「エンドルスファン」を含む農薬を保有している場合は、最寄りの農協または購入店へご相談ください。

●農薬の保管管理の徹底

1. 農薬の保管管理の徹底及び盗難、紛失の防止に万全を期し、万一盗難、紛失事故が発生した場合は、直ちに警察署に届けてください。
2. 特に毒物または劇物の農薬は、必ず鍵のかかる保管庫等に保管するとともに、定期的に保管量を把握し、利用状況を記録してください。

●農薬の適正な処分

(次のいずれかの方法で)

1. 農家等排出事業者自身で、許可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託してください。
2. 農協等が回収・処分している場合は、定められた方法に従ってください。

被害防止柵(電気柵)の購入補助について

イノシシやアライグマ、ハクビシンの農作物被害を防ぐには電気柵などの被害防止柵の設置が効果的です。市では、自己所有地または利用権設定をしている農地に被害防止柵を設置する費用の補助をしています。補助を受ける場合には、被害防止柵を設置する前に申請が必要となります。詳しくは市産業振興課へお問い合わせください。

●有害鳥獣被害の対策

・ヤブや草むらは動物にとって、人里までの通路となります。農地を適正に管理して被害を防ぎましょう。

・動物にとつて、畑は格好のエサ場となります。畑に侵入されないよう、地面に杭を打った囲いや電気柵を設置し、農作物は早めに収穫しましょう。

捕獲された有害鳥獣



イノシシ



ハクビシン

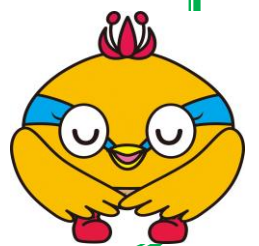
農業経営状況

調査について(お願い)

農地法の規程に基づき、本年も8月1日現在の農業経営状況調査を実施します。調査対象は「耕作面積または所有農地面積が10a(約一反)以上の農家」です。この調査の申告の内容を重視し、農地法の許可申請、農家証明、耕作証明などの証明書を発行します。前年同様でも新たに記入しての提出をお願いいたします。

同時に配布致します農地流動化アンケートに関しましては、希望者のみ、ご提出ください。

毎年、大変お手数をお掛けしますが、ご理解いただきご協力をお願いします。



農業委員会委員・農地利用最適化推進委員の紹介

農地利用最適化推進委員



眞通昭彦 委員

原宿 新堀新田 旭ヶ丘(高麗川)
野々宮 猿田 上鹿山 中鹿山
下鹿山 鹿山



紫藤清司 委員

山根 北平沢
南平沢 田波目



師岡一夫 委員

横手 高麗本郷 清流 高岡
久保 台 新堀 栗坪 梅原 楡木



本藤利一 委員

大谷沢 下大谷沢 田木
馬引沢 高富



庄司 等 委員

女影 中沢 女影新田



鈴木國昭 委員

駒寺野新田 森戸新田 高萩
旭ヶ丘(高萩) 下高萩新田



福嶋輝幸 委員

山根 北平沢



佐藤茂男 委員

田波目 南平沢



梅澤三子 委員

原宿 新堀新田
旭ヶ丘 (高麗川)



横田拓也 委員

野々宮 猿田
上鹿山



江連喜美 委員

新堀 栗坪 楡木



森谷 進【職務代理】

駒寺野新田 森戸新田
下高萩新田



道谷淳史 委員

旭ヶ丘 (高萩)



島村芳孝 委員

高萩



浅田カヨ子 委員

女影 女影新田



清水典子 委員

中沢



島村 実 委員

大谷沢 馬引沢 田木



鳴河のり子 委員

下大谷沢 高富

農業委員会委員

平成28年の農業委員会法改正、今年1月の農業委員会委員任期満了に伴う改選において、14名の新農業委員会委員が決まりました。また、4月には新たに創設された農地利用最適化推進委員を6名委嘱し、合計20名の新体制で運営を開始しています。(推薦または応募による公募制において、農業委員会委員は市長が任命、農地利用最適化推進委員は農業委員会長が委嘱しています。)

なお、1月17日に開催された農業委員会初会議において、会長に横手澄男委員、職務代理に森谷進委員が選出されました。

※氏名の下は
各担当地区(大字)です。



日高市ブルーベリー研究会 林 幹郎 会長

ブルーベリー研究会について

日高市ブルーベリー研究会は、耕作放棄地の解消や、うど、お茶、栗に次ぐ新たな特産品の創出を目的に、平成17年に設立されました。現在は24人が所属し、市内各地に広がる約3ヘクタールの農園で、ブルーベリーの調査・研究に取り組んでいます。

今回、平成29年度から研究会の会長になられた林幹郎さんに研究会の活動などについて、お話を聞きました。



林 幹郎 会長

撮影場所：林ブルーベリー園（新堀地内）

ブルーベリー研究会の活動



熟したブルーベリー
（6月中旬撮影）



美味しいブルーベリー作りのための剪定講習会、接木講習会やブルーベリー栽培の先進地視察を行っています。また、保育園へのおやつとしてブルーベリーを提供したり、小学生の夏休み体験教室ひ・まわり探検隊で、ブルーベリーの摘み取りとジャム作り体験を行っています。各種イベントにも参加しています。サイボクでのブルーベリーまつりや市民まつりに出店し、ブルーベリーやジャム、ゼリーなどの加工品を販売しています。



ブルーベリー栽培を始めたきっかけは

20年ぐらい前に農協の注文でブルーベリーの苗木を買いました。実が取れるようになり、ジャムを作って食べたところ、美味しくて虜になり、友達にあげても好評でした。品種により風味、大きさ、収穫時期が違うので、色々な品種を試してきました。鉢植えでやっていましたが、本数が多くなってきたことで、畑での栽培になりました。今では、20品種350本栽培しています。



林ブルーベリー園で摘み
取ったブルーベリー

今後についての抱負を お願いします

ブルーベリーも、市の特産品としてだいたい認知されてきました。今後も美味しいブルーベリー作りができるよう、また、市内にあるブルーベリー農園が観光農園としてもPRできるような頑張っていきたいと思います。



明日の農家 高沢諒平さん

緑豊かなわがまち日高市で、明日を担うフレッシュな農家の皆さんが、あちこちで頑張っています。今回は、駒寺野新田地区で露地野菜を中心に農業を営む、高沢諒平（たかざわりょうへい）さんにお話を伺いました。

農業を始めたきっかけは？

祖父が他界し、伯父が引き継いだ農業の人手が足りなくなり、アルバイト感覚で休日に少しずつ手伝っていました。その最中に幼少期に祖父とした農業の事や美味しい野菜との触れ合いを思い出し本格的に始めたいと思い、埼玉県農



高沢諒平（たかざわ りょうへい）さん

業大学校へ行き、基礎を学び直しました。その後、明日の農業担い手塾の門を叩き研修を終えて新規就農者として頑張っています。

現在の活動内容は？

露地野菜で人参、玉葱、じゃがいも、ほうれん草、トウモロコシなど多品目を育てています。主に販売先は地元のスーパーや飲食店へ卸しています。飲食店の方と繋がった切っ掛けは、学生時代にアルバイトをしていて、その後も連絡を取り合い親睦があったからです。

その飲食店で野菜を提供させていただったり、お店のイベント時に野菜を使用してもらい、その場で野菜を紹介することや、食べていただいたお客様からの言葉の励みにして、栽培活動をしています。



趣味はなんですか？

アウトドアからインドアまで幅広く色々な事に手を出しています。幼少の頃はサッカーをやっていて、高校生の頃はバーベキューや海釣り、スキーやスノーボードを毎年友達と楽しんでいました。一週間くらい家を空けて、両親を心配させたこともありましたが、今ではいい思い出です。専門学生時代に知り合った人が全国各地にいたりして、今でも遊びに行つて観光したりもしています。最近、友達とキャンプやスポーツセンターで遊んだり、釣りやスノーボードなども継続してやっています。



抱負をお願いします



自慢のとうもろこし

日々農家の先輩方に公私ともにお世話になっていますが、今の自力では先輩方の背中には到底及ばないので、しっかりと経験を積み、先輩方のように私も後輩に日高市の良い農業を伝えられる人になれるよう努力して結果を出していきたいです。それと今、日高市の若い世代が活気があるので、農業会議所やむさし4Hクラブ（地域若手農家の集まり）の仲間と共に、明日の農業を支えられたいと思います。最後になりますが、これから新鮮で風味豊かな野菜を皆様にご提供できるよう、より一層頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

親子稲作体験を開催しました！！



＜苗を植えている様子＞
楽しそうにやっていました

5月27日（土）、巾着田にて日高市農業後継者対策協議会と株式会社アンジェリカ農園が共同で「親子稲作体験」を開催しました。市内の親子18組48人と都内のアンジェリカ保育園に通う園児と保護者が参加し、アンジェリカ農園スタッフの指導の下、みんなで力を合わせ、最後まで苗を植えることができました。

田んぼの中は、思っていた以上に、一步を踏み出すことも難しく、中には尻もちをついて、泥んこになってしまう子もいましたが、親子で歓声をあげながら楽しく体験をすることができました。

稲の成長と秋の収穫が楽しみです！！

第2回ひだか栗フェスティバル開催！！

昨年に続き「ひだか栗フェスティバル」が開催されます。日高市の特産である高麗川マロンの販売をはじめ、様々なイベントが開催されます。市内の和・洋菓子屋の“栗を使った商品”も販売されますので、ぜひ、ご来場ください。

●開催日時 平成29年9月24日（日）
午前9時から午後4時30分

●会場 日高市巾着田曼珠沙華まつり会場内



農業者年金は積立年金

安心で豊かな老後生活のためには、国民年金だけでは十分と言えず、老後の生活費は自分で準備する必要があります。メリットがたくさんある農業者年金に加入して安全で豊かな老後を迎えましょう。

※加入申し込み、ご相談は最寄りの農協・農業委員会または農業者年金基金へお問い合わせください。

【加入要件】

- ①国民年金第1号被保険者
- ②60歳未満の方
- ③年間60日以上農業に従事する方

編集委員（順不同）
横田拓也 島村実
島村芳孝 清水典子
梅澤三子



全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が発行する農業総合専門紙です。

「週刊」の時間を生かし、情報がわかりやすいよう解説的にまとめています。

☆発行日 毎週金曜日 ☆購読料 700円/月
お申し込みは農業委員会へ